

2022年3月期 決算説明会

タカラバイオ株式会社
2022年5月17日

本日の内容

- ・ 22/03期 通期業績
- ・ 23/03期 通期業績予想
- ・ 「中期経営計画2022」の進捗状況と今後の施策

22/03期 通期 業績

(百万円)	22/03期 通期	前期比	2月10日 予想比
売上高	67,699	+21,613 +46.9%	+2,699 +4.2%
試薬 [※]	54,605	+19,416 +55.2%	+2,392 +4.6%
機器	1,518	▲208 ▲12.1%	+163 +12.1%
受託	11,426	+2,525 +28.4%	+143 +1.3%
遺伝子医療	148	▲119 ▲44.5%	0 0%
売上総利益	49,211	+17,339 +54.4%	+2,735 +5.9%
営業利益	28,902	+14,949 +107.1%	+2,902 +11.2%
研究開発費	6,109	+564 +10.2%	▲52 ▲0.8%

- **試薬**：一般研究用試薬、新型コロナウイルス検査関連試薬ともに大幅伸長
- **機器**：新型コロナウイルス検査用途の需要減少により減収
- **受託**：再生医療等製品関連・遺伝子解析/検査関連ともに好調。複数の新型コロナウイルスワクチン関連受託も加わり増収
- **遺伝子医療**：臨床試験用製品等の減少により減収
- **営業利益**：増収と原価率改善などにより増益
- **研究開発費**：将来成長に向け積極的に投資

②

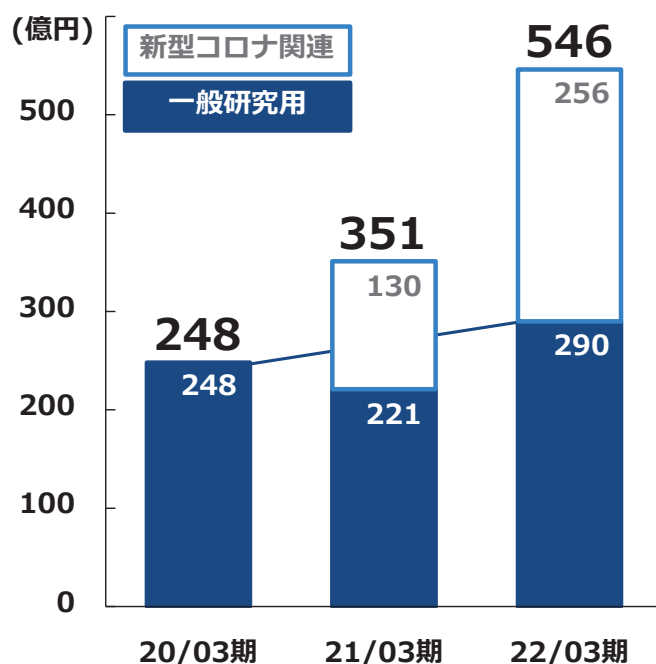
※ 体外診断用医薬品を含む

(注) いずれも前期比を説明

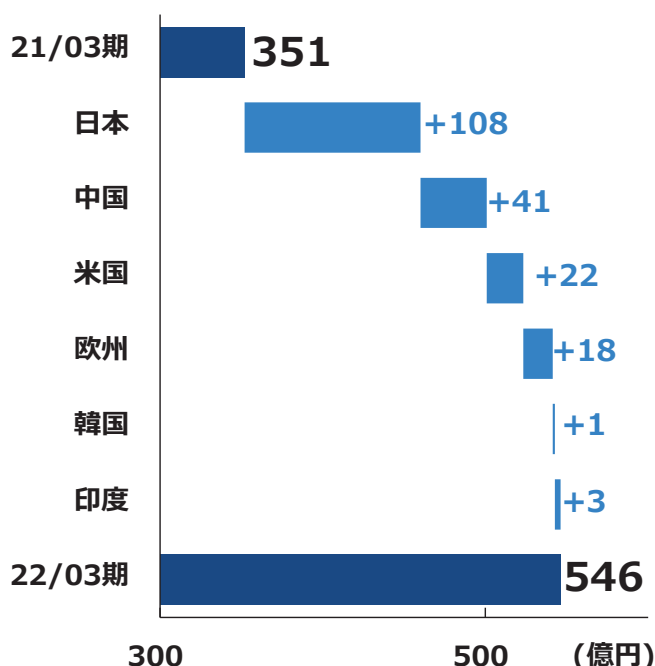


試薬事業：一般研究用試薬の売上が コロナ禍前の成長水準に回復し過去最高となった

試薬売上高の内訳



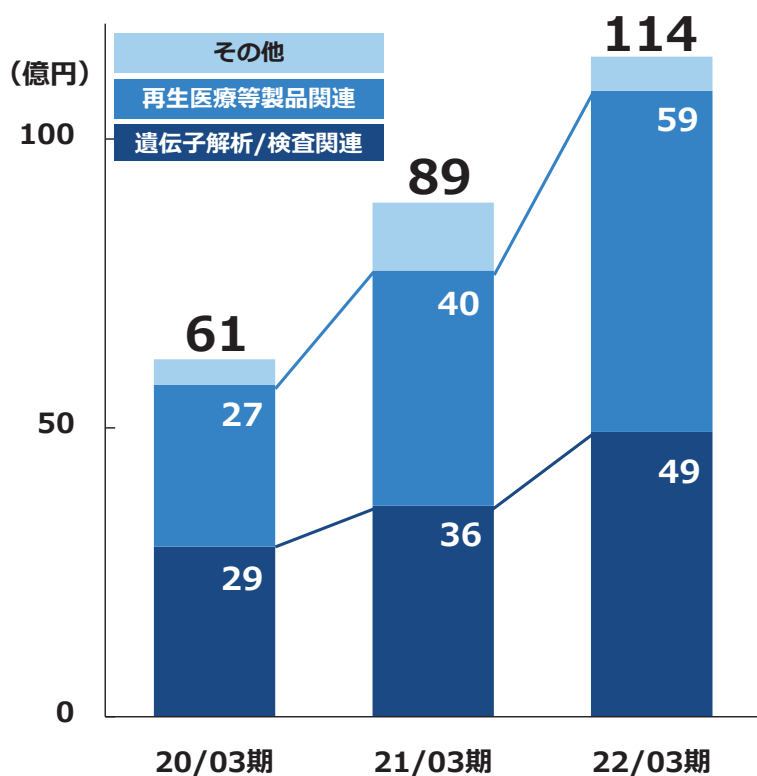
地域別売上高



③



受託事業：再生医療等製品関連受託・ 遺伝子解析/検査関連受託ともに堅調に推移



再生医療等製品関連受託

- 製薬企業やバイオベンチャーの再生医療等製品開発プロジェクトの需要に対応し、ベクター製造、細胞加工、品質試験のすべての領域の受注が好調に推移
- 複数の新型コロナウイルスワクチン関連プロジェクトを受注

遺伝子解析/検査関連受託

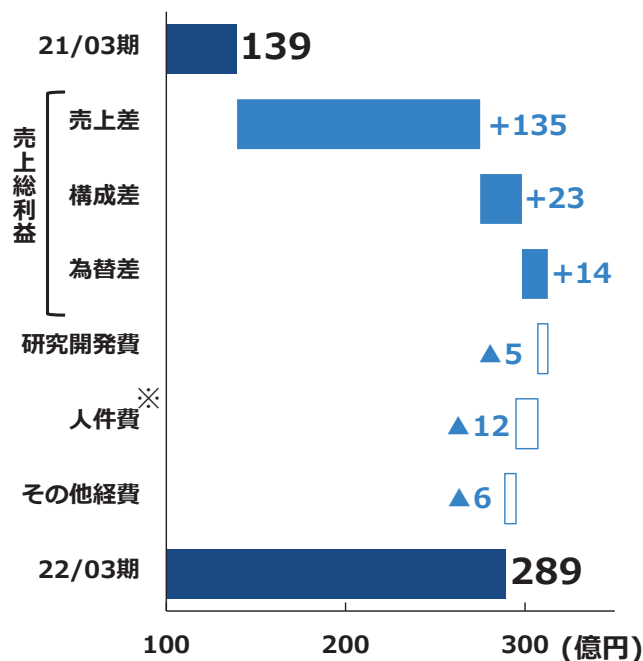
- 複数の大型ゲノム解析プロジェクトの受注等により堅調に推移
- アカデミアに加え、企業からの次世代シーケンサー解析関連受託も好調

4

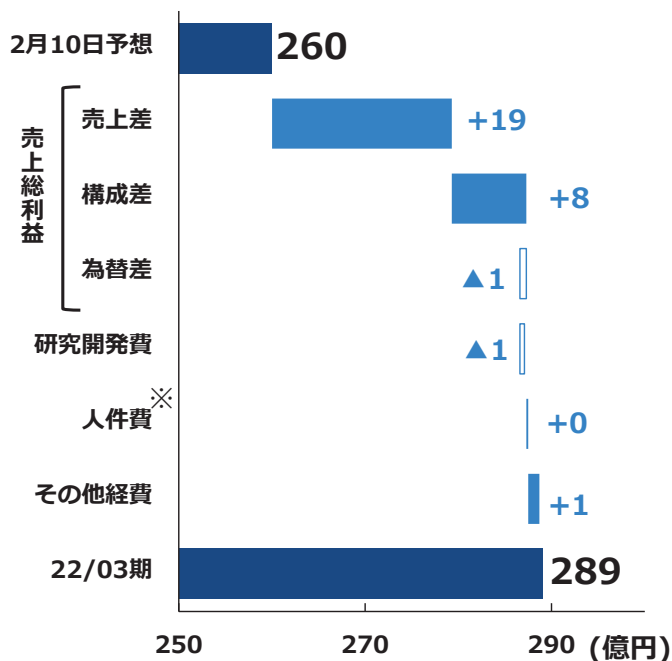


営業利益は増収と利益率改善により大幅増益 過去最高益を達成

前期比



2月10日予想比



5

※研究開発人件費を除く



本日の内容

- ・ 22/03期 通期業績
- ・ 23/03期 通期業績予想
- ・ 「中期経営計画2022」の進捗状況と今後の施策

6

 TaKaRa

23/03期 通期 業績（予想）

(百万円)	23/03期 通期予想	前期比
売上高	55,300	▲12,399 ▲18.3%
試薬 [※]	41,010	▲11,468 ▲21.9%
機器	1,471	▲47 ▲3.1%
受託	10,212	▲1,214 ▲10.6%
遺伝子医療	2,606	+331 +14.6%
売上総利益	37,855	▲11,355 ▲23.1%
営業利益	15,000	▲13,902 ▲48.1%
研究開発費	7,820	+1,711 +28.0%

- **試薬**：一般研究用試薬の増収は継続、新型コロナウイルス検査関連試薬の大幅な需要減により、全体では減収を見込む
- **機器**：新型コロナウイルスPCR検査用途の需要減少により減収を見込む
- **受託**：細胞加工、ベクター製造などの再生医療等製品関連受託は増収を計画、新型コロナウイルスワクチン関連受託や、大型ゲノム解析プロジェクトの減少により、受託全体では減収を見込む
- **遺伝子医療**：23/03期より、GMPグレード試薬類(再生医療等製品製造用)等の売上を「試薬」から組替えた（前期比は当該変更を反映した数値）
- **研究開発費**：中期経営計画を上回る積極的な投資を継続

7

※体外診断用医薬品を含む

 TaKaRa

新型コロナウイルス検査関連試薬の減収により減益予想 研究開発投資など経営基盤強化は継続する

営業利益 前期比 増減

売上総利益

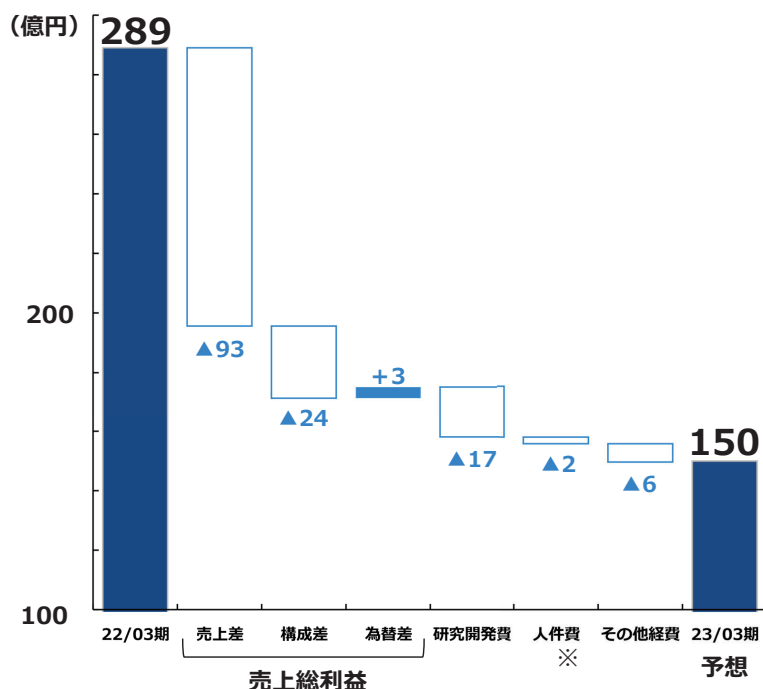
一般研究用試薬は堅調に推移し増収を計画、新型コロナウイルス検査関連試薬類の減収と総利益率低下のため、売上総利益は減益を予想

研究開発費

研究用試薬類の新製品開発強化に加え、創薬基盤技術や製造関連技術開発にも積極的に取り組む計画

人件費・その他経費

人材育成、製造・販売体制拡充などの経営基盤強化は継続



8

※研究開発人件費を除く



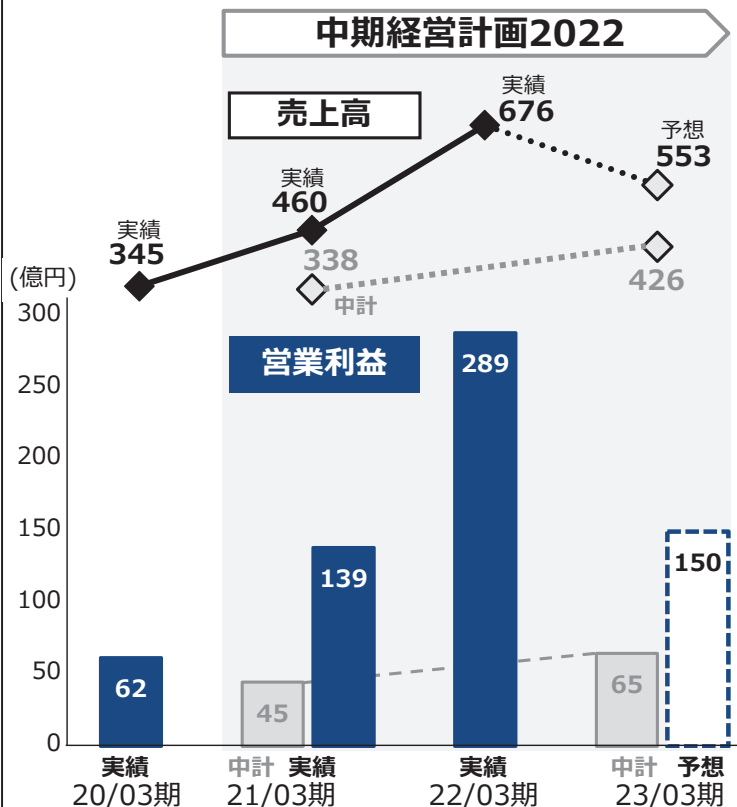
本日の内容

- ・ 22/03期 通期業績
- ・ 23/03期 通期業績予想
- ・ 「中期経営計画2022」の進捗状況と今後の施策

9



新型コロナウイルス検査関連需要への迅速な対応により業績は計画を大きく上回った

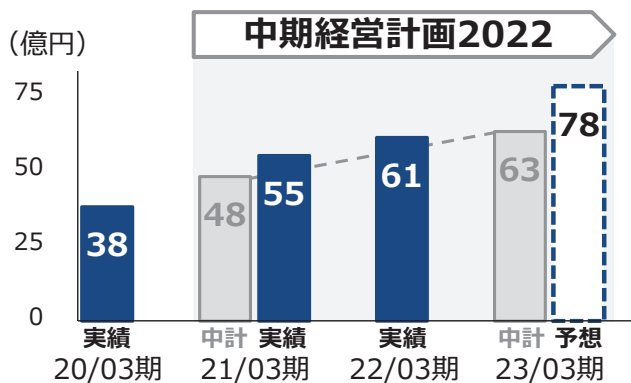


- 「中期経営計画2022」は「長期経営構想2025」の最終年度(26/03期)目標である営業利益100億円の達成に向けた“成長基盤を構築するための3か年”と位置づけている
- 売上高・営業利益ともに、中期経営計画の定量目標を大きく上回って達成できる見通し
- 23/03期は新型コロナウイルス検査関連需要の急激な減少を前提とせざるを得ないが、試薬・CDMO事業を軸とする継続的な事業拡大と業績伸長を目指し、中期経営計画に定めた施策の総仕上げに取り組む

10



上振れた収益を有効に活用し 経営基盤の強化計画を前倒しで進める

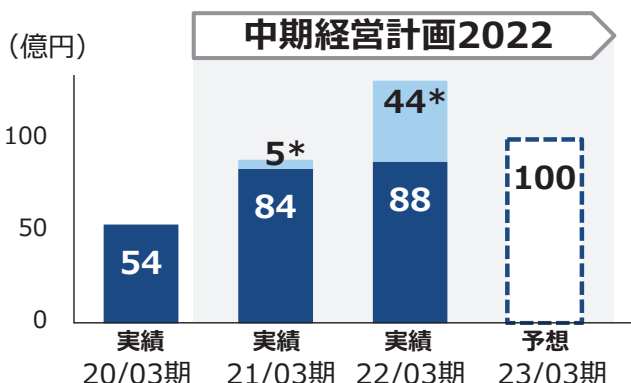


研究開発費

- 中期経営計画期間3か年の研究開発投資合計は、当初計画：約170億円を上回り、約195億円とする計画

設備投資

- 遺伝子・細胞^oロッキングセンター2号棟の完全実装化
- ウイルス^o大規模製造設備の拡充
- 細胞加工室の増設
- DNA^oラミド^o製造設備の拡充*
- 体外診断用医薬品などの試薬キット製品製造設備の新設*
- Takara Bio USA 新拠点の試薬類製造体制の拡充



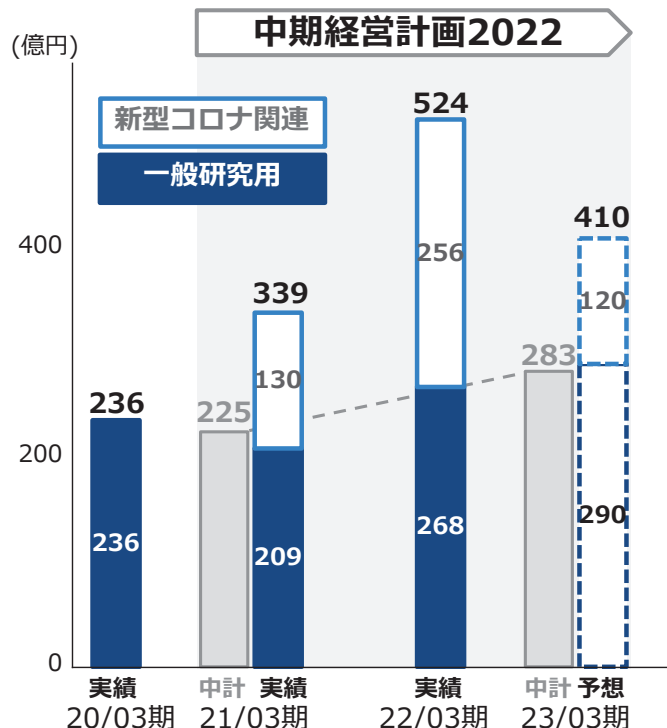
11

*政府補助金分(合計約50億円)



試薬事業①：一般研究用試薬が堅調に推移 グローバル製造・販売体制の再構築を進める

売上実績・予想※

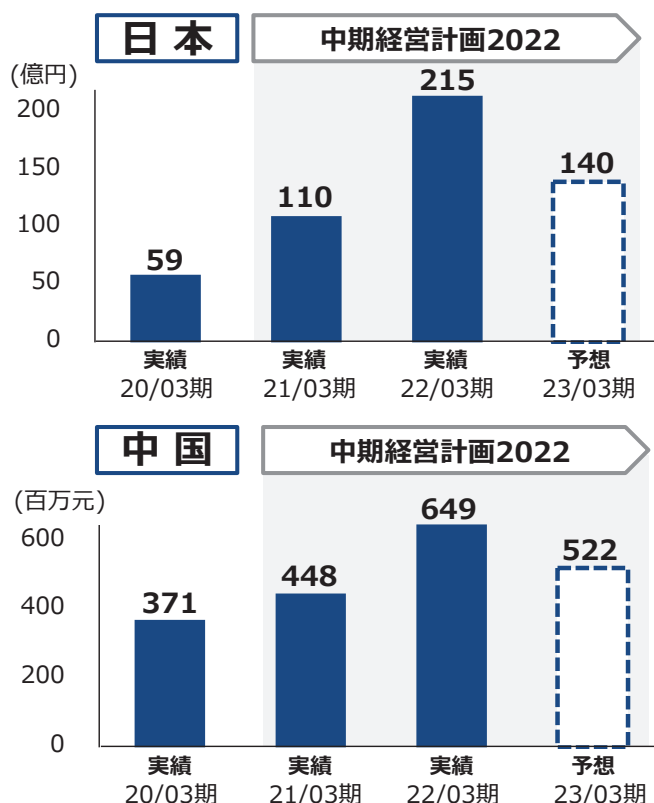


- 地域特性を考慮した“グローバル”な製造・販売体制の構築を推進
- 地域差はあるが、一般研究用試薬全体の売上は、コロナ禍前に策定した成長目標：年率7%以上を堅持
23/03期も中期経営計画水準に達する見込み
- 効率性向上とリスク低減のバランスを踏まえた“グローバル”な製造体制を新施設も活用し再構築
- 主要キット製品の国内需要分は国内で製造完結する体制を構築
- 米国・欧州においても、PCR酵素などそれぞれの地域の需要に柔軟・機動的に対応できる“グローバル”な製造体制を構築

12 ※一般研究用試薬は組替え後の数値を表示



試薬事業②：日本・中国の一般研究用試薬は コロナ禍のマイナス影響から脱し伸長

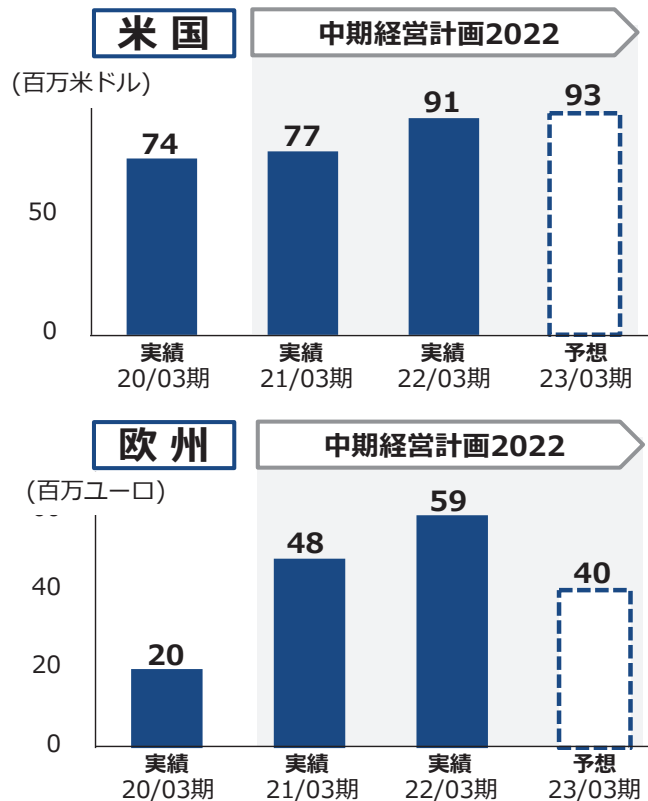


- 日本と中国の23/03期の一般研究用試薬は、コロナ禍前(20/03期)との比較で、中期経営計画の目標である年率7%成長の水準達成を見込むが、新型コロナウイルス検査関連試薬は大幅減収を予想する
- 日本では、昨年発売した高性能PCR酵素「TaKaRa Ex Premier DNA Polymerase」や、mRNAワクチン開発関連新製品などの拡販に注力
- 中国では、アフリカ豚熱(ASF)などの検査施設向けPCRカスタム製品供給や、市場が拡大している生殖医療関連検査(RHT)向けのNGS関連先端研究分野への拡販に注力

13 (注) 一般研究用試薬は組替え後の数値を表示



試薬事業③：米国・欧州の一般研究用試薬は 未だコロナ禍の影響が残るが回復傾向

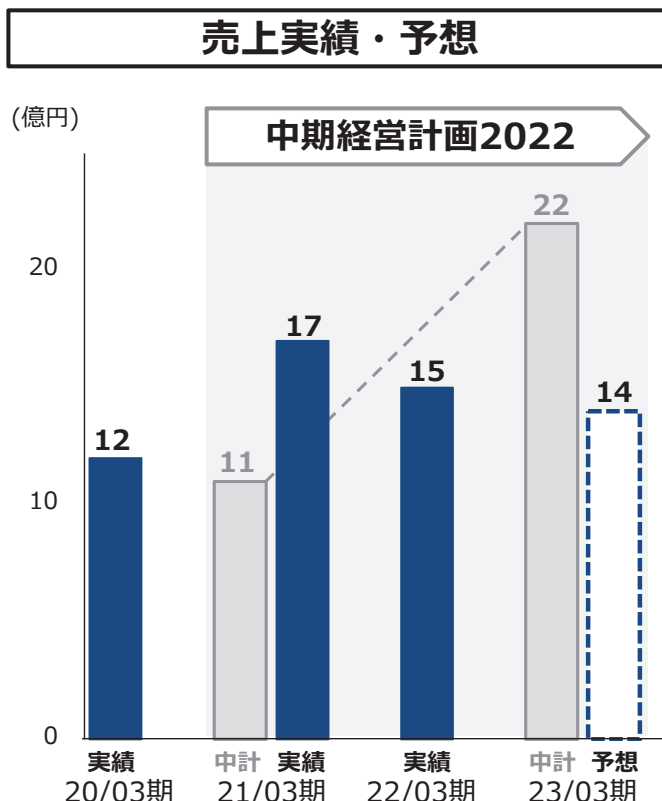


- 米国の23/03期は、一般研究用試薬がライフサイエンス分野での研究開発活動の回復・活発化により伸長し新型コロナウイルス検査関連試薬の減収を補い全体では増収となる予想
- 米国では、NGS解析関連製品のOEM供給や、生殖医療関連検査(RHT)キットなどを伸長させる計画
- 欧州の23/03期は、一般研究用試薬の増収を見込むが、新型コロナウイルス検査関連試薬のOEM・バルク製品供給が大幅減収となる予想
- 英国に新設した販売会社(Takara Bio UK Ltd.)による英国向け販売などを伸ばす計画

①④ (注) 一般研究用試薬は組替え後の数値を表示



機器事業：専用試薬システムの開発により アプリケーション分野への展開を図る



PCR関連装置

- 新型コロナウイルス検査関連需要に対応し21/03期には増収となったが、以降は需要減少に伴い減少
- オンサイト(検体採取現場)検査などの新セグメント向けの機種やその専用試薬システムの開発を強化

シングルセル解析関連装置

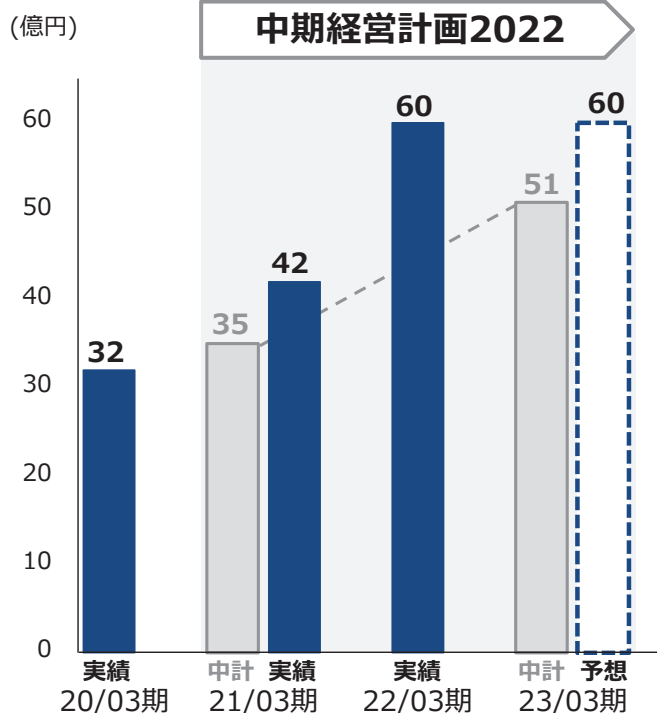
- ICELL8[®]cxの販売は計画未達となる見込み、バージョンアップ機種の開発に注力
- 優位性のある独自技術(SMART[®], PicoPLEX[®])を最大限に活かしたアプリケーション開発に重点を置き新規受託メニューへの活用も含めた事業展開を計画

①⑤



CDMO事業①：再生医療等製品関連受託 積極的な技術開発/設備投資により体制強化を図る

売上実績・予想



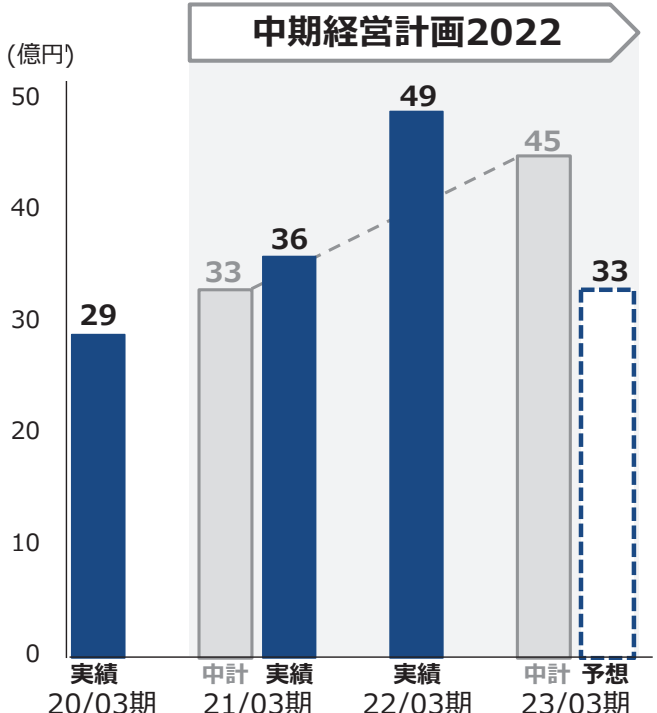
- 増設/拡張する製造施設を最大限活用し、拡大する再生医療等製品開発・製造・品質試験受託の需要を確実にとらえ中期経営計画目標を達成する見込み
- ウイルスベクターや遺伝子導入細胞の大規模製造に対応するため 遺伝子・細胞プラットフォームセンター2号棟の完全実装化を計画より前倒しで実施
- 増員のみならず技術訓練プログラムを拡充し、大規模化・高度化するプロジェクトの受託体制をさらに強化
- mRNAなどの多様なモダリティの大規模・高効率製造技術開発やプロセス自動化に継続的に取り組む

16

Takara

CDMO事業②：遺伝子解析/検査関連受託 高付加価値受託メニューへのシフトを図る

売上実績・予想

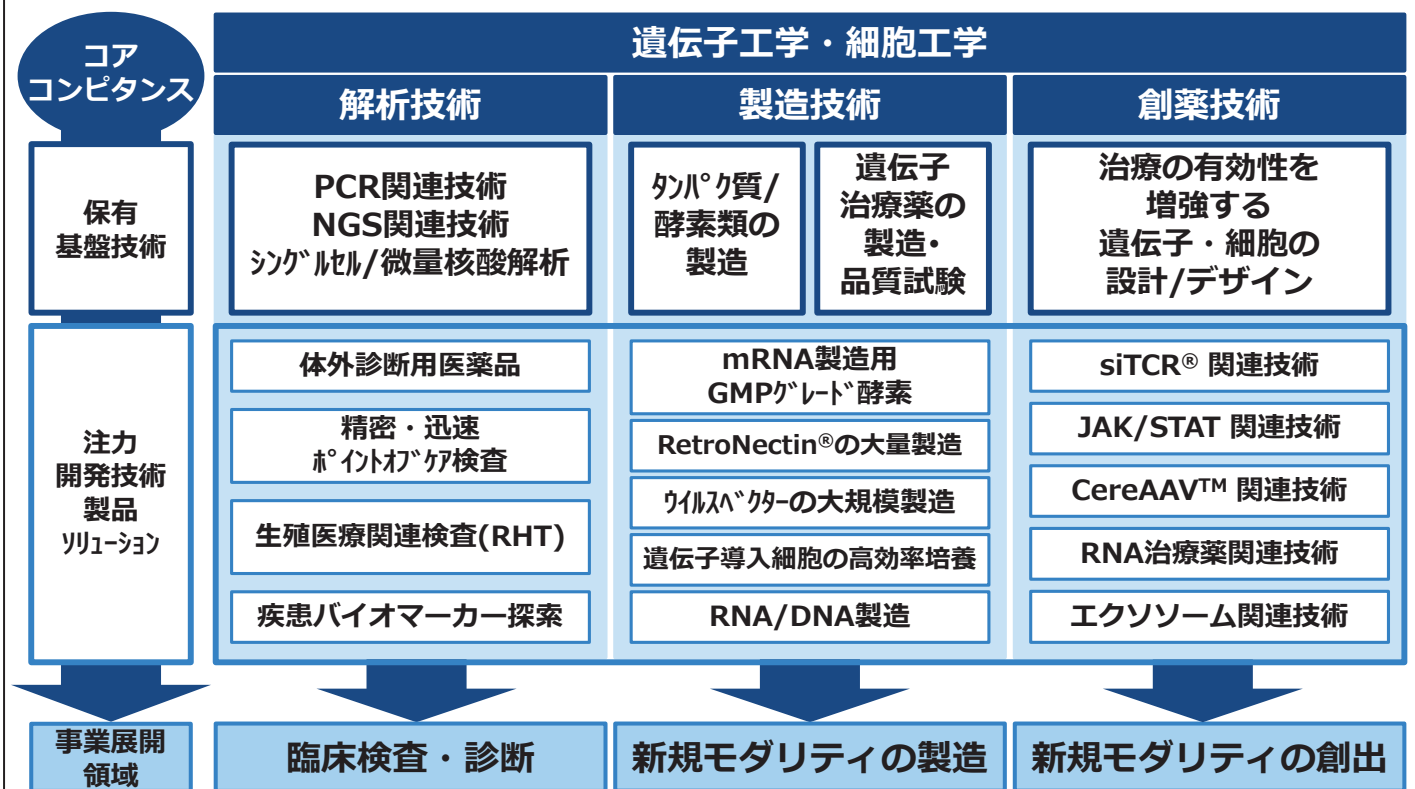


- 国内最大規模の解析キャパシティを活用したヒト全ゲノム解析などの大型プロジェクトへの対応により、業績は中期経営計画の目標水準を上回り堅調に推移
- 国主導の当該プロジェクトの終了などを考慮し、計画最終年度(23/03期)は目標未達となる予想
- 超微量核酸/シングルセル解析技術とのシナジーを最大限に活用し生殖医療関連検査(RHT)分野など次世代シーケンサー(NGS)解析の臨床診断分野への応用や、製薬企業の開発支援サービスなど、高付加価値受託メニューの開発を推進

17

Takara

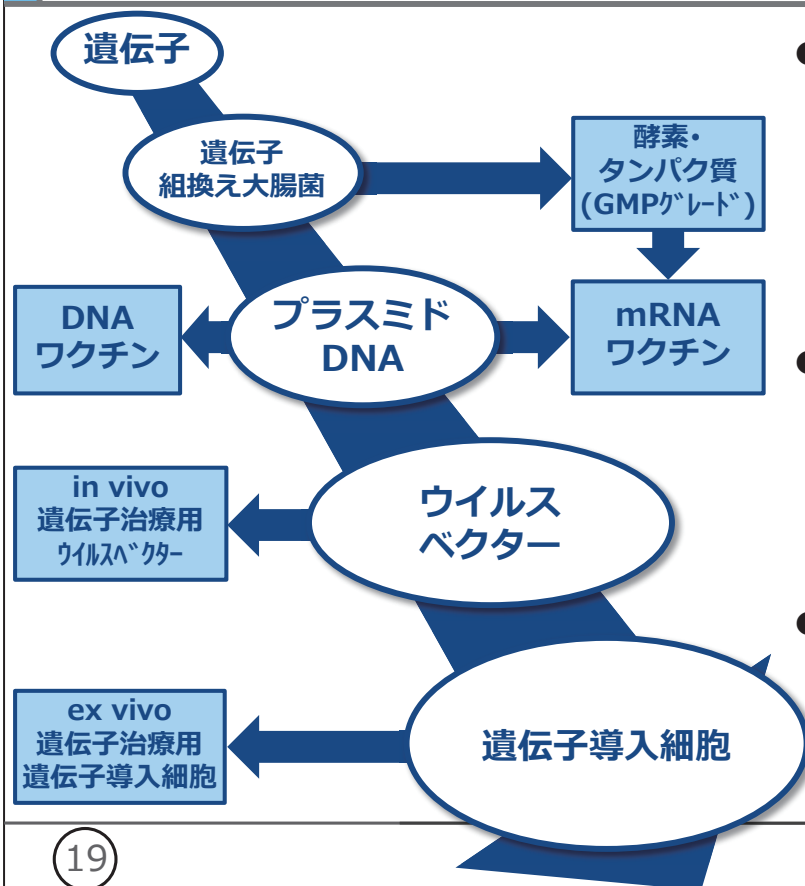
研究開発の方向性：基盤技術の臨床・創薬分野への展開の加速と製造技術力の強化に注力する



18

Takara

製造技術力の強化：組換えタンパク質の製造能力の増強 ウイルスベクター・細胞の高効率製造法の開発を進める



- CAR-Tなどのex vivo遺伝子治療薬(遺伝子導入細胞)の製造における世界標準となっている遺伝子導入補助剤RetroNectin®の需要増に応えるため大量製造技術/体制を早期に確立
- 海外メーカー製品に依存しているmRNA合成用酵素の国産化に着手。mRNAワクチン原薬製造用GMPグレード酵素類の安定供給体制を確立
- ウイルスベクターの大規模製造法の確立や、遺伝子導入細胞の加工プロセスの高効率化によるコストダウン技術開発も推進

19

Takara

当社独自の創薬基盤技術の価値最大化を目指し 遺伝子治療への応用開発に注力する

siTCR® 関連技術

- NY-ESO-1・siTCR® (TBI-1301) :
滑膜肉腫を対象とした日本での製造販売承認申請を準備中。申請資料の信頼性保証と市販後の製造体制に関して、提携社と協議しながら、整備・体制強化を進めている。
- siTCR®ベクターシステムのさらなる機能向上を目指した試験研究を実施中。

JAK/STAT 関連技術

- CD19・JAK/STAT・CAR (TBI-2001) :
血液がんを対象としたカナダでの治験開始を準備中。治験データを既存のCD19・CAR遺伝子治療と比較し、JAK/STATを用いた次世代型CAR-Tの優位性を実証する試験を計画。
- 固形癌への応用を目指し、標的抗原の選定、ベクター設計の最適化、前臨床試験などを実施中。

20

TaKaRa

新規脳指向性AAVベクター：CereAAV™を開発 中枢神経疾患遺伝子治療薬への応用展開を図る

従来のAAVベクター
(AAV2)



遺伝子工学的改変
独自スクリーニング技術

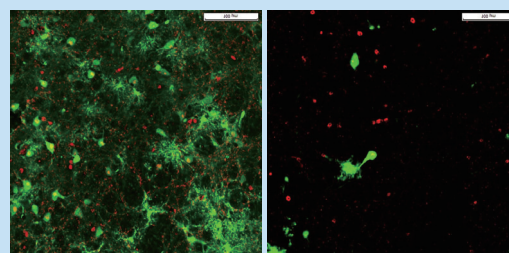
新規AAVベクター
CereAAV™



優位性 = 脳への高い指向性

- 従来より脳疾患向けに用いられてきたAAV9ベクターに比べ、静脈内投与後の脳への遺伝子導入効率が、マウスでは50倍以上、霊長類モデル動物(マーモセット)では20倍以上を確認
- 血液脳関門(BBB)を通過し、脳組織内で、神経細胞や血管内皮細胞へ高効率に遺伝子導入が可能であることを確認

マーモセットの脳(視床)への
遺伝子導入試験結果*



CereAAV™

AAV9

21

* 米国遺伝子細胞治療学会(2022年5月16日)にて詳細発表済

TaKaRa

中長期的な業績拡大のため さらなる経営基盤の強化を推進

財務・収益

- 22/03期の配当は前期から17円増配*の一株あたり33円（10期連続増配）
- 23/03期より配当方針を見直し、配当性向を想定当期純利益**の「20%」から「30%台後半」へ引き上げる方針
- 23/03期のROEは定量目標(6%)を上回る10.7%を見込む

人・組織

- 将来の成長を担う人材の採用に加え育成に注力
- 性別や国籍などに依らない多様な人材の活躍を推進
- GMP/GCTP製造対応などの技術研修プログラムを大幅に拡充
- 施設/設備拡充と制度運用改善の両面における就業環境の整備を継続的に実施

社会的価値の創造

- バイオテクノロジーによる産業支援や新モダリティの創出など企業理念に基づいた当社グループならではの事業活動による持続的成長と、持続可能な社会の実現を両立するサステナビリティ経営を推進

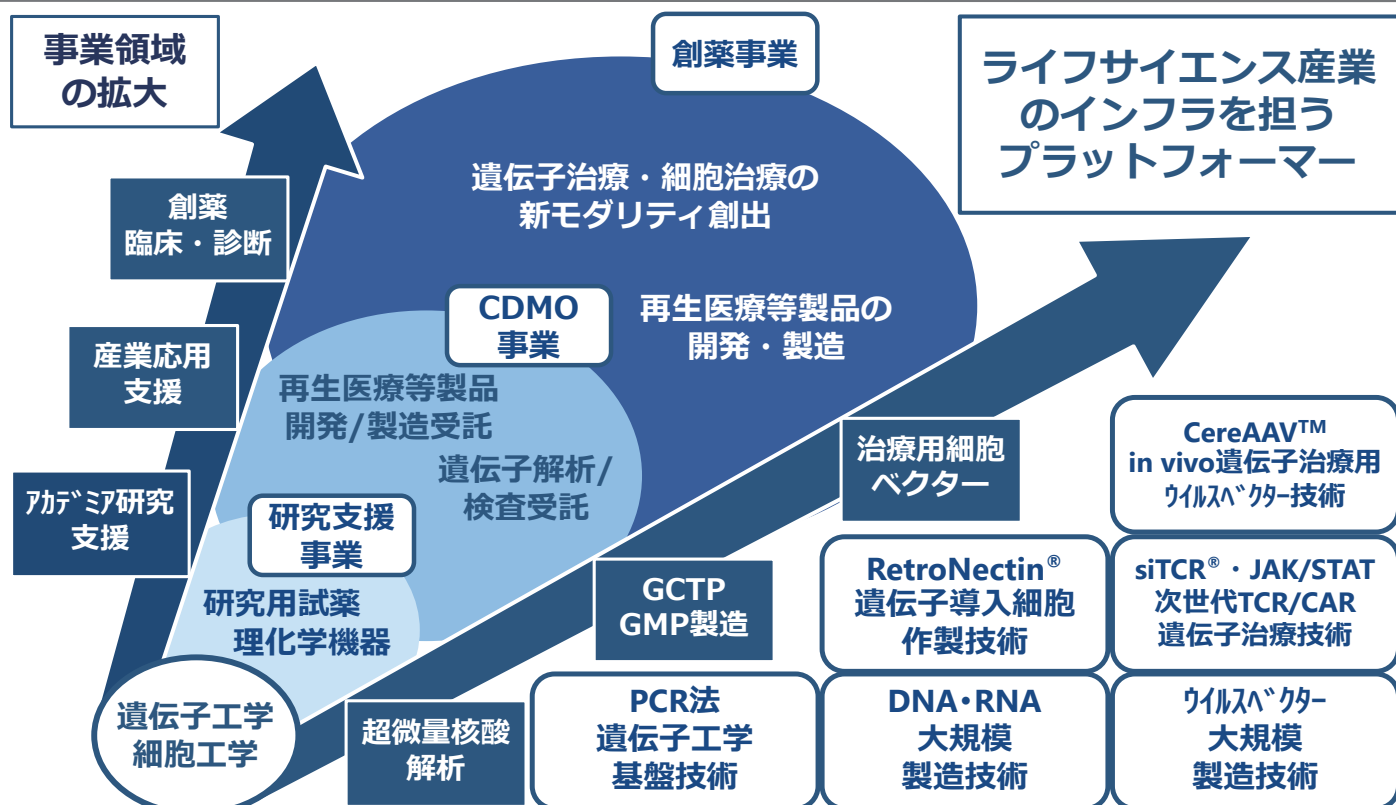
22

*株主総会(2022年6月24日開催予定)付議予定

**連結財務諸表における特別損益を加味せずに算出する想定当期純利益



新モダリティを創出する基盤技術の開発を原動力に 「試薬機器事業」と「CDMO事業」を両輪とした持続的成長を実現



23



将来の見通しに関する注意事項

資料中の当社による現在の計画、見通し、戦略、確信などのうち、歴史的事実でないものは、将来の業績に関する見通しであり、これらは現時点において入手可能な情報から得られた当社経営陣の判断に基づくものですが、重大なリスクや不確実性を含んでいる情報から得られた多くの仮定および考えに基づきなされたものであります。実際の業績は、さまざまな要素によりこれら予測とは大きく異なる結果となり得ることをご承知おきください。実際の業績に影響を与える要素には、経済情勢、特に消費動向、為替レートの変動、法律・行政制度の変化、競合会社の価格・製品戦略による圧力、当社の既存製品および新製品の販売力の低下、生産中断、当社の知的所有権に対する侵害、急速な技術革新、重大な訴訟における不利な判決等がありますが、業績に影響を与える要素はこれらに限定されるものではありません。

お問合せ先：広報・IR部

E-mail: bio-ir@takara-bio.co.jp

24

 Takara

【参考資料】

参考資料（22/03期業績・23/03期予想）

- ・ 22/03期 連結業績（通期）
- ・ 23/03期 連結業績（通期予想）
- ・ 22/03期 カテゴリー別売上高（通期）
- ・ 23/03期 カテゴリー別売上高（通期予想）
- ・ 22/03期 試薬所在地別売上高（通期）
- ・ 23/03期 試薬所在地別売上高（通期予想）
- ・ 会社別業績（22/03期通期、23/03期通期予想）
- ・ 為替レート（実績・予想）

25

 Takara

22/03期 連結業績（通期）

（百万円）

	22/03期 通期	前期比		2/10予想比	
		増減	増減率	増減	増減率
売上高	67,699	+21,613	+46.9%	+2,699	+4.2%
売上原価	18,489	+4,274	+30.1%	▲35	▲0.2%
売上総利益	49,211	+17,339	+54.4%	+2,735	+5.9%
販売費及び 一般管理費	20,309	+2,390	+13.3%	▲166	▲0.8%
営業利益	28,902	+14,949	+107.1%	+2,902	+11.2%
経常利益	28,459	+14,299	+101.0%	+2,259	+8.6%
親会社株主に帰属する 当期純利益	19,849	+10,302	+107.9%	+1,349	+7.3%

26



23/03期 連結業績（通期予想）

（百万円）

	23/03期 通期予想	前期比	
		増減	増減率
売上高	55,300	▲12,399	▲18.3%
売上原価	17,444	▲1,044	▲5.6%
売上総利益	37,855	▲11,355	▲23.1%
販売費及び 一般管理費	22,855	+2,546	+12.5%
営業利益	15,000	▲13,902	▲48.1%
経常利益	15,100	▲13,359	▲46.9%
親会社株主に帰属する 当期純利益	10,600	▲9,249	▲46.6%

27



22/03期 カテゴリー別売上高（通期）

（百万円）

	22/03期 通期	前期比		2/10予想比	
		増減	増減率	増減	増減率
試薬	54,605	+19,416	+55.2%	+2,392	+4.6%
機器	1,518	▲208	▲12.1%	+163	▲12.1%
受託	11,426	+2,525	+28.4%	+143	+1.3%
遺伝子医療	148	▲119	▲44.5%	0	0%
売上高合計	67,699	+21,613	+46.9%	+2,699	+4.2%

28



23/03期 カテゴリー別売上高（通期予想）

（百万円）

	23/03期 通期予想	前期比	
		増減	増減率
試薬	41,010	▲11,468	▲21.9%
機器	1,471	▲47	▲3.1%
受託	10,212	▲1,214	▲10.6%
遺伝子医療	2,606	+331	+14.6%
売上高合計	55,300	▲12,399	▲18.3%

※ 2022年3月期まで「試薬」に含めていたGMPグレード（再生医療等製品製造用）の試薬類等の売上高を、2023年3月期より「遺伝子医療」に加えております。本表は、当該変更を反映して組み替えております。

29



22/03期 試薬所在地別売上高（通期）

（百万円）

	22/03期 通期	前期比（為替影響除く）	
		増減	増減率
日本	22,067	+10,809	+96.0%
米国	11,322	+1,926	+21.2%
中国	11,168	+3,041	+42.8%
欧州	7,933	+1,319	+21.5%
韓国	1,119	+80	+8.3%
印度	993	+308	+47.3%
合計	54,605	+17,486	+49.7%

30



23/03期 試薬所在地別売上高（通期予想）

（百万円）

	23/03期 通期予想	前期比（為替影響除く）	
		増減	増減率
日本	14,067	▲7,450	▲34.6%
米国	10,560	+165	+1.6%
中国	9,045	▲2,161	▲19.5%
欧州	5,186	▲2,462	▲32.0%
韓国	1,150	+39	+3.5%
印度	1,003	+4	+0.5%
合計	41,010	▲11,864	▲22.6%

※ 2022年3月期まで「試薬」に含めていたGMPグレード（再生医療等製品製造用）の試薬類等の売上高を、2023年3月期より「遺伝子医療」に加えております。本表は、当該変更を反映して組み替えた標記データです。

31



会社別業績（22/03期通期、23/03期通期予想）

(百万円)

	22/03期 通期		23/03期 通期予想	
	売上高	営業利益	売上高	営業利益
タカラバイオ (単体)	50,398	21,931	37,431	9,987
Takara Bio Europe (連結)	8,279	1,539	6,128	755
宝生物工程(大連)	4,940	1,391	5,121	1,290
宝日医生物技術(北京)	11,800	1,906	9,800	1,367
Takara Korea Biomedical	1,229	197	1,365	213
DSS Takara Bio India	1,007	148	1,025	117
Takara Bio USA	13,691	1,933	14,614	1,959

為替レート（実績・予想）

(単位：円)	22/03期 通期	23/03期 通期
	実績	予想
米ドル	109.90	113.00
ユーロ	129.91	129.00
人民元	17.04	17.30
100ウォン	9.60	9.60
インドルピー	1.49	1.50
スウェーデンクローナ	12.81	13.00
ポンド	151.17	152.00